

## 『皮膚からの全身操法』を学ぶにあたって。

この『皮膚からの全身操法』は手首、足首、頭部などの任意の小さなコンタクトポイントからの皮膚刺激のみで、自由自在に相手の方の体に自発動を誘発し、クレニオ・セイクラル・セラピーの『アン・ワインディング（巻き戻し）』等とはまた違う作用機序で、全身調整が行えるようにするもので、操体法の一つです。

**熟練してくると、全身のどの部位からでも、自発動を誘発出来るようになります。**

.....

皮膚は脳に匹敵する、人体で最大の感覚器官なので、皮膚の一部に加えられた刺激は、皮膚全体の隅々にまで広がって行き、この特性をうまく利用すると、その人自身の体の中から、その人自身を治すために必要な動きが、自発動的に表れて来ます。

術者は、その動きに制限をかけない様に、またその動きを追跡して行きつつ、更にその自発動が促進される様に誘導して行きますが、初回からすぐに自発動を誘発出来る人もいれば、出来ない人もいます。

また、すぐに自発動を誘発出来る人の場合でも、その動きがごくわずかしか表れない人の場合、無意識の内にその動きにブレーキをかけてしまう傾向にあります。

その一方で、熟練した術者には、そのわずかな動き…即ち、その人の体が動きたがっている方向が、感覚的に分かるので、その人自身に、自分の体が動きたがっている方向を理解させてあげるために、最小限の力で動きが中断しない様に、アシストしてあげることになります。

その為、人によっては、そのわずかな自発動を、まるで術者に動かされている様に感じてしまい、その人自身の体から発生している自動的な動きであることを理解してもらいにくいケースが結構出て来ます。

しかし、その様な場合でも、セッションを何回か繰り返す内に、必ずその自発動の感覚を体で理解してもらえるようになり、スイッチが入ったように、ダイナミックな動きが自動的に表れて来るようになりますので、辛抱強く取り組んで下さい。